

平成20年度理学部卒業予定者アンケート

理学部では、平成21年1月14日から2月27日にわたり平成20年度理学部卒業予定者を対象に大学生活全般に関するアンケートを実施した。

「Ⅰ．分析と今後の教育へのフィードバック (pp. 1-17)」は平成21年度理学部コース長が担当した。また、「Ⅱ．集計結果 (pp. 18-37)」は理学部大学点検評価委員会が受け持った。なお、本年度は手違いにより情報科学コースの卒業予定者へのアンケートが実施されなかった。このようなことは今後起こらないように十分注意したい。

Ⅰ．分析と今後の教育へのフィードバック

数理科学コース

数理科学コース卒業予定者数52名のうち35名から回答を得た。昨年度(26/41)に比べ若干回収率は上がったが、依然低い。

ところで、19年度アンケート結果と比較するため、割合は(20年度, 19年度)と並べて表記している。

【全般的な質問】

「高知大での勉学や生活で満足できたもの」についての質問では、例年のことではあるが友人との出会い(71%, 80%)が高い。次に続くのが、研究室での卒研ゼミ(66%, 50%)、先生との出会い(51%, 50%)、課外活動(51%, 50%)である。授業については(51%, 27%)と前年度に比べ大幅にアップした。満足できなかったもののトップに授業(43%, 61%)がきているのは前回同様であるが、減少している。授業の満足度については、二極化が見受けられる。共通教育に関しては「満足できるものが少なかった、あるいはできなかった」(18%, 28%)と下がっている。

教育研究施設(学習環境)は「満足、ほぼ満足」(80%, 60%)と上昇している。これは、前年度施工された理学部2号館の耐震・改修工事が終了し、埃・騒音等の劣悪な状態から解放されたせいであろうと思われる。

就職支援体制は「満足、ほぼ満足」(51%, 72%)と答えている。満足度が下がったのは、金融不安に伴う就職難が要因の一つであるかもしれない。

ボランティア活動への参加は(20%, 31%)と前回より若干下がっている。満足できたものの割合は(100%, 100%)である。

【コース分属】

全員本人の希望通りである。

【シラバス】

9割程度の肯定的な回答であり、前回と変わらない。

【受講科目の感想】

理学部開設の授業(講義, 実験, 演習, セミナー)の満足できた授業数は、40以上(17%, 12%),

40-30(20%, 20%), 30-20(40%, 36%), 20-10(19%, 24%), 10 以下(6%, 8%) である。若干ではあるが満足度は上がった。他方、満足できなかった授業は、40 以上(3%, 4%), 40-30(3%, 8%), 30-20(23%, 12%), 20-10(14%, 36%), 10 以下(54%, 40%) と不満足度は下がり、改善の方向である。

不満足な理由としては、1 位は「実力がつかなかった」(55%, 33%)と「不親切で分かり難い授業だった」(55%, 42%) で、前年度の 1 位は「一方的な押し付け授業だった」(34%, 50%) である。この受講科目の感想についてのアンケート結果は、前々年度と同じ傾向である。受講生の資質や受け止め方により、毎年変わるものと思われる。

満足の理由としては 1 位が「実力がついた」(64%, 54%)と「親切で丁寧な授業であった」(64%, 54%) で、他の項目でもほとんどのものが前回は上回っている。全体的な判断としては、満足度のバランスは変化したが、その満足度のトータルは上昇したと考えてよいだろう。

【標準履修モデル】

ほとんどが肯定的回答である。

【専門科目への要望】

「授業内容や難易度の配置」、「より高度な授業内容の実施」、「難しい授業が多すぎる、レベルの低減」、「実験実習の時間の増加」、「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」での評価においては、賛否ほぼ半々であり、現在の履修モデルは微妙なバランスの上にあり、おおむね適切なものであると考えられる。これは例年の評価と同じである。また、ビジネスマナー・金融などが出ているが、具体的なイメージが特にあるようでもない。

【成績評価】

「適切か」は否定的回答が(15%, 19%), 「成績評価は自分の予想とあっていたか」の否定的回答は(15%, 27%)であった。前回より下がり、評価法の開示の効果を示していると考えられる。

【授業改革】

「授業科目数と内容の適切さ」では肯定的意見は(97%, 92%), 足りないが(3%, 8%)であった。

【アドバイザー教員制度】

肯定的意見は(97%, 91%)であった。

【自由意見】

「講義とその演習(同演習)の内容が大きく違う授業が幾つかあった」との指摘については、検討に値する。また、「しっかりとした演習を増やす」との要望もある。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

当然ことではあるがアンケートの回収率を上げるとともにアンケートの記入に十分な時間を確保する必要がある。特に、自由記述が増えるように配慮すべきであると考えられる。

前年度のアンケート結果と比較すると、全般に卒業生の評価は上がっている。これは、教員の授業評価アンケートなどに基づく授業改善、学生指導などの努力が成果を上げてき

ているものと評価できる。しかし、今回のアンケート結果はその学年全体の雰囲気や資質によることも考えられる。不断の改善努力が求められる。

年々数学コースを希望する学生が増えつつあることを考えると、適切な教室配分を考慮すべきである。また、多人数が受講する「演習」の授業方法についても検討すべきである。

今までの学部・学科改組に対し、数学の教育システムについてはその場しのぎの対応をしてきたように思われる。今までのアンケート結果も踏まえ、数学コースのカリキュラムを全般的に見直す時期にきている。

物質基礎科学コース

物質基礎科学コース卒業予定者 26 名中 22 名から回答を得た。各質問事項には、昨年度（平成 19 年度）の結果との比較も含めた。

【全般的な質問】

大学での勉学や生活において満足できたかどうかという質問にたいして、満足できたものとして友人(76%)（昨年度 56%）という回答が他コースと同じくらいになり安心した。それと関連して「課外活動」(29%) も昨年度 (19%) に比べやや持ち直したが他コースに比べ少ないのが気にかかる。一方、「研究室や卒研ゼミ」(52%)（昨年度 69%）と「先生との出会い」(48%)（昨年度 63%）が少し下がったが安定しており、3, 4 回生時で卒論など少人数での研究や共同作業を通して学問の面白さを知るだけでなく人間関係にも大きな影響を与えていることが見受けられる。また「授業」(24%)（昨年度 13%）はやや持ち直してきており、後のほうでも見られる通り「授業」に対する改革の成果が現れているのがうかがわれる。

他方、不満足として挙げられたものに「授業」(44%)（昨年度 47%）が相変わらずあるが、少しだが下がっている。その他についてはほとんど不満足な項目が見られないのはよかった。「共通教育の授業」については「満足できた」が (14%)（昨年度 0%）とかなり改善されている。

「教育環境施設」が十分であったかとの質問には、耐震工事が完了したこともあり、概ね満足している (68%)。

大学の「就職支援活動」に対しては概ね満足が (68%)（昨年度 38%）と改善されているようだ。個別的には「コースの就職支援」は好評であった。

【コース分属】

昨年度は不本意分属の割合が昨年度に引き続き今年度も不本意分属がなくなっている。転学科が今年はあったが受け容れられており問題はない。

【シラバス】

概ねシラバスは昨年度同様、授業選択に役立っており (91%)（昨年度 82%）、授業もシラバスにしたがって行われていた (87%)（昨年度 80%）。

【受講科目の感想】

受講科目に対する満足度は低い。「満足できた科目数」が 30 個以下の割合が (73%)（昨年度 82%）と少し改善された。しかし、授業の満足で「専門分野の力がついた」(59%)（昨年度

38%)「親切で丁寧な授業であった」(55%)(昨年度 50%)と昨年度より大きく改善された、個別的には教員の努力が伝わって満足した授業になっていることがはっきりしてきた。

逆に満足できなかった授業が 30 個以上の割合が 10% (昨年度 6%) と少ないのは上記の結果を裏付けている。不満足の原因には「不親切でわかり難い授業であった」の割合(73%)(昨年度 64%)が大きい、「教員の熱意が感じられなかった」が 23% (昨年度 36%) となっていることから十分改良されつつある。

【標準履修モデル】

「概ね配置されていた」という肯定的な意見は(90%)(昨年度 82%)になっており、専門と専攻の配置に対しても(91%)(昨年度 87%)は肯定的であり、コースのカリキュラムは受講生にとって満足されているものと思われる。また、コースの教育目標と標準履修モデルが合致しているという意見でも(86%)(昨年度 81%)もの肯定的な意見が占められている。

【専門科目への要望】

より高度な授業を要求するのは必ずしも積極的ではなく(87%)、どちらかといえば消極的な回答であった。

この結果は、物理分野の特徴として基礎を積み上げていかないと高度な題材を扱うことが出来ないとの認識が表れているものと考えられる。

「難しい授業が多すぎるのでレベルを下げて欲しい」(41%)(昨年度 50%)との回答と、「最前線の研究成果を学ぶため実験実習の時間を増やして欲しい」(54%)(昨年度 50%)との要求については、毎年このくらいの数字で相半ばしている。「サークル活動やアルバイトなどのため授業時間を減らして欲しい」との要求は(86%)(昨年度 76%)が否定的な回答をしていることから十分な自由時間をコースのカリキュラムは与えられていると思われる。「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望には(68%)(昨年度 20%)とかなり増加しており、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力が考えられており、これに応えるような授業も考えなくてはならないであろう。

【成績評価】

成績評価は「概ね適切」(73%)(昨年度 69%)と考えている。その理由は「成績評価と自分の予想」に大きな隔たりがなかった(82%)(昨年度 51%)との回答からも窺える。

【授業改革】

授業科目数と内容は「概ね適切である」(86%)(昨年度 69%)との回答で改善されている。ただ、個々には「専門の授業の選択し、ボリュームをもっと増やしてほしい」「卒研に必要な授業を増やしてほしい」「全体の数を減らすより、必須を減らしてもっと幅がほしい」などの要求もあった。

【アドバイザー教員制度】

「概ね適切であった」との回答が(100%)(昨年度 87%)にもなっていることから4年間総じて上手く機能していると思われる。理学部の教育や高知大学の教育全般について、意見があれば、「他大学並みに講義を充実してほしい」「教職の講義を増やしてほしい」などの意見があった。

【フィードバック】

昨年度あたりからコース分属での不本意分属がほぼ解消されてきていることに象徴されるように、総合的に学生の満足度は確実に増加してきている。しかしどのコースでも同じだが、「授業」に対する満足度が低いのはずっと続く問題点である。昨年度指摘されたコースの定員を充足しているとはいえない現状から発する問題点は、来年度から新しい教官の加入もあって次第に解消されることと考える。プレゼンテーション能力を得たいという学生の希望もあり、学生とのやりとりをする中で講義を進めるような試みも考えてもいいのではないかと考える。このことも含め「物理」がおもしろい、興味がもてる学問であることを知ってもらえるような授業が望まれる。

物質変換科学コース

物質変換科学コース卒業予定者 31 名のうち、27 名から回答を得た。

【全般的な質問】

高知大学での勉学や生活で満足できたものとして「友人との出会い」(85%)、「研究室での卒研やゼミ」(65%)、「授業」(35%)が1位～3位を占め昨年とほぼ同じような傾向であった。一方、満足できなかったものとして「授業」、「課外活動」が多数を占めており、特に授業を上げる学生が昨年の29%から57%へと大幅に増加した。共通教育の授業に対して「満足できる授業が多かった」と思う学生は昨年の41%から11%へと大きく減少し、逆に「満足できる授業が少なかった」と「満足できなかった」と答えた学生は、昨年の35%から60%にも増加した。厳しい就職活動に臨んだ学生にとって自己評価に直結する専門授業と異なり、教養教育の必要性を実感できなかったものと思われる。

教育施設（学習環境）については、「満足できた」および「ほぼ満足できた」が59%を占めた。理学部2号棟は平成19年度に耐震工事を終え、前年の比べると好結果が期待されたが、昨年とほぼかわらない結果となった。工事の結果、研究室内の狭歪化が進み学習机も置けないような学習環境の悪化が影響しているものと思われる。就職支援活動に対しては、「満足できた」と「ほぼ満足できた」と答えた学生が43%であり、昨年の100%から大きく減少した。不況の中厳しい就職活動を反映した結果と思われる。ボランティア活動に参加した学生は他のコースに比べ少数であった(11%)。化学系教育コースの場合、演習や実験などの授業が多く、自主学習にも多くの時間を割く必要があり、ボランティア活動に参加しにくいのかかもしれない。

【コース分属】

第一希望コースに分属したが100%であり、分属はうまくいったといえる。

【シラバス】

授業シラバスが、授業選択に役立った、役に立つこともあったが合せて98%を占めている。授業がシラバスの授業計画に沿って実施されているかについては、「実施されていた」(15%)、「ほぼ実施されていた」(67%)となっており、「余り実施されていなかった」(11%)、「実施されていなかった」(7%)と答えた学生を上回っていた。しかし、他コースに比べる

と「実施されていなかった」とする学生の割合がやや高くなっており、今後の改善が必要である。

【受講科目の感想】

在学中に受講した理学部開講科目のうちで、満足できた授業の数は「40 以上」(0%), 「30-40」(23%), 「20-30」(27%), 「10-20」(31%), 「10 以下」(19%) となっている。満足した理由として、「専門分野の実力がついた」(63%), 「親切で丁寧な授業であった」(37%), 「教員の熱意が感じられた」(15%), 「授業が一方的でなかった」(15%) などとなっている。一方、満足しなかった理由として、「実力がつかなかった」(32%), 「不親切でわかり難い授業だった」(72%), 「教材の工夫が見られなかった」(40%), 「教員の熱意が感じられなかった」(32%), 「一方的な押し付け授業だった」(44%) などとなっている。

【標準履修モデル】

基礎教育科目と専門コア教育科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていたかについては、79%が「配置されていた」、または「概ね配置されていた」と回答している。専門コア教育科目と専門選考教育科目についても、「配置されていた」、または「概ね配置されていた」が78%を占めている。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施して欲しい」との要望に対する意見として、「全くその通りである」(15%), 「概ねその通りである」(52%), 「あまりそう思わない」(30%) となっている。さらに「最前線の研究成果や手法を学ぶために、実験実習の時間を増やして欲しい」との要望に対しては、「全くその通りである」、「概ねその通りである」を合せて56%であった。一方で「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げたい」という要望に対する意見として、41%が「概ねその通りである」、「全くその通りである」と回答しており、他コースに比べやや高くなっており、講義内容の工夫やティーチング技術の一層の向上が必要である。「社会に出て役に立つことを授業に盛り込んで欲しい」という要望に対する意見として、昨年は81%の学生が「全くそのとおりである」「概ねその通りである」と答えていたのに対して、今年度は55%の学生が、「その通りである」と答えており減少した。

【成績評価】

成績評価の方法は適切であったと思うかに対しては、「適切であった」と答えた学生67%に対して34%の学生は、「切でない授業もあった」と答えている。

【授業改革】

理学部の各学科が開設している授業科目と内容については、「適切である」(89%)「足りない」(11%)に対し、「多すぎると答えた」学生は0%であった。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導・支援は適切であったかの問いに対しては、「適切であった」と答えた学生は70%、「適切ではなかった」は30%であった。

【自由意見】

- ・ 各コースにより、授業の難しさがあることは分かりますが、コースにより採点の基準が甘いなど、不公平な感じがします。
- ・ 授業によっては、教員が選択できないものがあって、成績に差が生じたりしていたよ

うに感じた。選択の授業ではいくつか満足できたものもあったが、必須の授業ではなかったと思う。

- ・ 取りたくない授業をとらなければいけないことがある。先生が選べなかった場合など。授業評価をきちんとしてくれない先生もいる。
- ・ 一回生時の基礎科目が高校の復習となっていて、少し無駄に感じた。実験も基礎実験では、やらされているように感じてしまい楽しくなかった。一年時から、分野を選択できたほうが良いと思った。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

例年に比べ全般的に満足度の低い回答の割合が増加している。不況の中、厳しい就職活動を強いられ自身の実力不足を痛感するにいたって、その責任をコース教育に転嫁しているようにも思われるが、就職活動を通じて培われた厳しい目であらためてコースの教育を精査した結果とも考えられる。特に、他コースに比べ授業に対する満足感に乏しい傾向にある。授業についていけず授業数を減らし、より平易な授業を求めるグループが存在すると同時にコース教育に対して満足度が高く、より高度な授業を求めるグループも存在しており、2極化しつつあるように思われる。いずれかのグループを偏重すれば他方の満足感が減少することは目に見えており、その対応は容易ではない。しかし、今後より高度な授業を提供するとともに、授業についていけなくなりそうな学生にも配慮できるシステム作りが求められる。

生体機能物質工学コース

卒業予定者 31 名のうち 22 名から回答を得た。回答率は 71%である。

【全般的な質問】

高知大学における勉学や生活での満足度をみると、「研究室での卒研やゼミ」(77%)や「友人との出会い」(86%)が高い。これは満足できなかったもののうちで低い値の「研究室での卒研やゼミ」(7%)や「先生とのトラブル」(0%)の数値と平行であり、研究室配属後の充実した学生生活を反映している。授業に関しては満足できたものでは 36%、不満足では 57%となって、他コースと同程度の値となった。

共通教育については肯定的評価（満足できた 9%＋満足できる授業が多かった 50%）が否定的評価（満足できる授業が少なかった 36%＋満足できなかった 5%）を上回った。この傾向は理学部全体にみられるものである。「共通教育の授業は多くの学生が教室に入って講義を受けるという形式なので、専門の授業に比べ、私語が多く真面目に授業を受けている学生にとっては迷惑なので、今までよりも徹底して私語を慎むように指導してほしい。」という意見があった。徹底した私語に対する注意必要性を痛感する。

教育研究施設（学習環境）については肯定的評価（満足できた 27%＋ほぼ満足できた 41%）と高く、改修の成果が数字となって現れている。

就職支援活動については肯定的評価（満足できた 26%＋ほぼ満足できた 42%）が否定的評価（あまり満足できなかった 11%＋満足できなかった 21%）を大きく上回っている。また「就職支援セミナーに参加し、非常にためになるものが多く、やる気を出させてくれた」などのセミナーに対する肯定的な意見があった。

ボランティア活動への参加については、参加したことがある者が 11%、参加したことが

ない者 89%であった。参加した者の満足度はおおむね高い（満足できた 50%、ほぼ満足できた 25%）

【コース分属】

第一希望コースに分属した者は 100%となり、不本意分属は皆無であった。転学部・転学科・転コースの申請をしたことがあるものは 14%となり 8 コース中で最高値となって、全員が受け入れられた。

【シラバス】

シラバスに関する問では、シラバスが授業選択に「役立った」（68%）、あるいは、「役立つこともあった」（27%）とする肯定的評価が 95%を占め、否定的評価は少ない。また、授業がシラバスに沿って実施されていた、ほぼ実施されていたとする評価する者が 100%を占めた。

【受講科目の感想】

満足できた授業の数は 40 以上（9%）、30-40（36%）、20-30（18%）、10-20（36%）、10 以下（0%）で、昨年度の 40 以上（19%）、30-40（19%）、20-30（19%）、10-20（38%）、10 以下（5%）と比べて同程度と評価できる。

満足した理由としては 91%の者が「専門分野の実力がついた」ことをあげている。また、「教員の熱意が感じられた」ことを満足の理由にした者は 50%となっている。これは他のコースに比べて極めて高い値である。

満足のできなかった授業の数は 40 以上（0%）、30-40（5%）、20-30（14%）、10-20（18%）、10 以下（64%）であった。満足しなかった理由では「実力がつかなかった」（40%）と「不親切でわかり難い」（45%）が上位を占めたが、この傾向は他のコースと同様な傾向である。各種 FD を活用した教員のティーチング・スキルの向上が求められる。

【標準履修モデル】

基礎教育科目と専門コア教育科目は、授業内容や難易度において「適切に配置されていた」、もしくは、「概ね配置されていた」とする肯定的評価が 89%となり、昨年度（91%）よりやや上昇した。また、専門コア教育科目と専門専攻教育科目は、授業内容や難易度において「適切に配置されていた」（23%）、もしくは、おおむね配置されていた」（77%）とする肯定的評価は 100%であった。コース独自の教育目標と標準履修モデルは「合致していた」（14%）、もしくは、「概ね合致していた」（77%）とする肯定的評価は 91%であり、昨年度（87%）より上昇した。

【専門科目への要望】

より高度な授業内容を実施して欲しい、という要望に対して「全くそのとおり」（5%）、もしくは、「概ねそのとおり」（32%）と回答した者は 37%で、他のコースに比べて概して低い。これは昨年の 72%に比べて減少している。難しい授業が多いので、もう少しレベルを下げて欲しいという要望に対して「全くそのとおり」（0%）、もしくは、「概ねそのとおり」（27%）となり、学生のレベルに合致した授業難易度と推察できる。

最前線の研究成果や手法を学ぶために、実験実習の時間を増やしてほしい、という要望

に対して「全くそのとおり」(36%)、もしくは、「概ねそのとおり」(23%)と回答した者は59%で、昨年度(77%)に比べて減少した。

サークル活動やアルバイトとぶつかるので、実験実習等の授業時間を軽減してほしい、という要望に対して「全くそのとおり」(0%)、もしくは、「概ねそのとおり」(23%)と極めて低い値となり、他コースと同様の傾向であった。

社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい、という要望に対して「全くそのとおり」(23%)、もしくは、「概ねそのとおり」(41%)と回答した者は64%で、昨年度(69%)と同様の傾向を示した。また「社会に出て役立つこととはどのようなものと考えているか」との問に対する回答を見ると、マナー、敬語、礼儀、一般パソコン技能などがあげられていた。就職試験や面接を通じて不足や必要性を感じた結果と推察できる。

【成績評価】

成績評価が「適切であった」(18%)、もしくは、「概ね適切であった」(64%)と回答した者は82%で、昨年度の86%と同様な値となった。成績評価が「適切であった」(18%)、もしくは、「概ね適切であった」(59%)と回答した者は77%であり、他コースと同程度の値となった。

【授業改革】

開講授業科目数と内容について、「適切である」(32%)、「概ね適切である」(68%)、「足りない」(0%)、「多すぎる」(0%)であった。昨年度の「適切である」(24%)、「概ね適切である」(67%)、「足りない」(10%)、「多すぎる」(0%)と比較すると、肯定的評価が上昇している。「足りない」「多すぎる」と答えた者は0%であり、満足度は高いようである。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導・支援の間に91%の者が「適切であった」(32%)、もしくは、「概ね適切であった」(59%)と回答している。「適切でなかった」と回答した者は9%であり、他のコースと同様の傾向である。

【自由意見】

「道路などを何回にもわたってなおすお金があるなら、研究費や研究に必要な設備にお金を使ってほしい」、「就職活動をしている時に感じたのだが、学科名・コース名が個性的であったので、採用担当者の方に具体的にどういう事を学んでいるか理解してもらえにくかった。」等の意見があった。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

全般的な質問で、「研究室での卒研やゼミ」(77%)や「友人との出会い」(86%)が高い。これは研究室配属後の好ましい学生生活を反映しており、今後もこの高い数値のレベルを維持したい。授業科目では、「実力がつかなかった」(40%)と「不親切でわかり難い」(45%)が上位を占めた。レポート、小テスト等の予習や復習の機会を増やして実力の向上に努め、またわかりやすい表現と内容を重視した授業を実現したい。専門科目では、学生の能力に見合った難易度の授業と評価でき、この傾向を維持したい。実験実習の時間の増加を希望した者が59%である。これに対して平成21年度からコース開設の実験科目がひとつ増える

ので、来年は満足度の上昇が期待できる。社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしいという要望は64%であった。内容をみると一般パソコン技能は対応可能である。しかし、マナー、敬語、礼儀など既存の授業で対応が難しい項目がある。就職対策セミナー等で、社会一般常識・マナーのセミナーとして対応すべきなのかもしれない。

生物科学コース

【全般的な質問】

授業および卒業研究に対する満足度は、それぞれ52%、69%であり、おおむね良好である。教育研究施設に対しての満足度は非常に低かった。これは、昨年度は建物改修工事のため、引っ越しの手伝いや研究施設がほとんど機能しない状況での卒業研究を余儀なくされたからであり、あまり参考にはならない結果であろう。共通教育科目に対しては、満足できたとする回答はわずか17%である。生物科学に限らず、他のコースも同様に極めて低い割合である。共通教育に対するカリキュラムについては、学生だけでなく教員からの改善の要望が十分に反映されないことが、このような結果を招いていると思われる。カリキュラムの再編がなされる場合、特に新しく授業科目群を新設する場合等においては、発案者（またはワーキンググループ）は、思いつきではなく、実際に15回分の授業計画、学内の担当可能な人材、期待できる教育効果のシミュレーションが必須である。

【コース分属】

生物科学コースに3%の不本意分属がいる。生物科学コースは毎年希望者が多く、定員オーバーしており、履修状況に基づいて選抜してきたので全員第1希望で分属していると思われるが、第2希望で分属した3%の学生が生じた理由が不明である。

【シラバス】

62%が「役立った」と回答しており、まずまずの評価結果であると思われる。ただ、なぜ100%が「授業選択に役立った」と答えなかったのでしょうか？理由は2つ考えられる。（1）授業がシラバスに沿った内容でなかった。（2）シラバスに沿って授業選択できるほどメニューが多くない（シラバスの有無に関わらず、卒業するためには、ほとんどの授業を履修しないといけない）。おそらく、（2）が原因であるように思われる。「シラバスに沿って授業がなされた」とする回答は、すべてのコースにおいて低く、生物科学コースでも24%と低い数値である。しかし、「ほぼシラバスに沿っていた」が72%であるから、シラバスの記載が原因で授業選択を誤ったとも考えにくい。

【受講科目の感想】

40以上の科目について満足したとする回答が21%と、相対的に最も高い値であり喜ばしいことである反面、次の質問の回答からわかるように、「満足」＝「専門技能が身に付いた」「スキルアップ」とは限らないようである。授業の満足度から判断すると、「A 専門分野の実力がついた」が、もう少し高い数値になる必要があるように思われる。「授業は面白いがあまり役には立たない」ではいけない。一方、16番の質問の「満足できなかった授業数」も相対的に最も多かった。その理由は、1番目が「授業がわかりにくい」、2番目が「役

に立たない」である。以上をまとめると以下ようになる。ほとんどの授業について満足した学生が 2 人いたとすると、ほとんどの授業に不満足な学生が 1 人いることになる。この原因、実体については今度調査分析する必要があるだろう。

【標準履修モデル】

専門コアと専門専攻科目の配置については大きな問題はなさそうである。「教育目標と履修モデルは概ね合致していた」との回答が多くをしめた。なぜ「合致していた」という回答が大多数を占めないのかは、21 番目の質問とも関連すると思われる。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望がかなり高い（62%）。もう少し授業内容のレベルをあげてもよいと思われる。

【成績評価】

「成績評価」は適切に行われていると評価された。おそらく、適切な割合で相対評価（または相対評価を加味した絶対評価）がなされていると思われる。また、成績の開示も行われていることがよい評価につながっていると思われる。

【授業改革】

「授業科目数と内容は適切」または「概ね適切であるという」回答が大多数を占めた。「概ね適切」というのは、他の質問項目から判断して、「授業レベルを少し高くしてほしい」という要望があると思われる。個別意見において、的確な批評が書かれている（オムニバス授業内容は他の専門の授業の一部を寄せ集めたもので重複している）。全く指摘の通りであるが、地方大学の場合は、少ない教員が多数の授業を担当しないといけないため、ある程度重複するのはやむを得ないようにも思われる。しかし、可能なかぎり改善する方向で努力しないといけない。

【アドバイザー教員制度】

「適切」または「概ね適切」であった。3 年次までは、授業料免除の書類に印鑑を押す程度なので、このような回答結果になるのも当然かと思われる。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

共通教育科目に関するアンケート結果が芳しくない理由は、本学教員の情熱不足でも能力不足でもなく、無理な導入教育カリキュラム（基軸）に問題があるように思われる。そして、幾度となく実施してきた学生・教員アンケート結果が、カリキュラムの改善に反映されないことも一因であろう。教育体系の理想論より、学内人的資源を有効活用できるようなカリキュラムを実現することが望まれる。導入教育は思いきって削除するということも選択肢の 1 つではないかと思われる。

専門授業については、多くの学生がもう少し高いレベルの授業内容を望んでいる。授業に対する学生の満足度は高く、その根拠は「教員の授業の工夫」、「親切で丁寧な授業」、「教員の情熱」などとなっており、教員の授業への取り組みが評価されている。今後の課題としては、専門的学力が非常に向上したと学生が実感できるように、到達目標を少し高く設定する授業内容に改善していく必要があるだろう。

地球史環境科学コース

【全般的な質問】

高知大学での勉学や生活で満足できるものに対する回答として、「研究室での卒研やゼミ」「友人との出会い」がそれぞれ 64%と選択肢の中で最も高い。これは、理学部全体の平均的な傾向と同じである。

地球史環境科学コースの回答を他コースと比べると、「友人との出会い」(64%)が最も低くなっていることを除くと、特に突出した違いは見られず、各コースの平均的な数値となっている。他コースとの比較では、「課外活動」で満足度の高いのが比較的に目立つ程度である。

過去のデータを参照すると、年ごとの変化が激しいようであり、「授業」については、33%→17%→36%と推移している。また、「先生との出会い」の項目は、53%→17%→36%と、類似のパターンを示しており、年ごとの違いが大きいことが分かる。

共通教育の授業に対する満足度は 36%であり、全コースの中で最も高かった。

教育研究施設（学習環境）への満足度についての回答は、「満足できた」と「ほぼ満足できた」との合計が 54%で、他コースと比べてやや低い数値であった。

就職支援活動についての回答は、「満足できた」「ほぼ満足できた」が合計 38%であった。特記されたコメントに、「自力で就職活動したので…」とあり、高知大の就職支援を活用しなかったことが伺われる。

ボランティア活動については、「参加したことがある」と回答した学生が 27%と全コースの中で 2 番目に多く、活動に対する満足度は 67%と各コースの中で最高であった。

【コース分属】

生物科学を除く他のすべてのコースで、全員が第 1 希望のコースに分属しているのに対して、地球史環境科学コースは 55%と特に低かった（ちなみに、生物科学コースでは、97%）。これは、第 2 希望のコースに分属した学生（27%）、および希望と異なるコースに分属した学生（18%）とも、生物科学コースを除く他のすべての他コースには全くいないのと対照的である。

転コースを希望して地球史環境科学コースに分属した学生は 9%おり、その申請はすべてかなえられている。

【シラバス】

シラバスが役に立ったかどうかに対する回答は、平均的な数値（「役立った」55%）であった。授業がシラバス通りに行われたかどうかに対する回答も平均的で、「実施されていた」「ほぼ実施されていた」を合わせると、91%の学生がシラバスの授業計画に沿って実施されていたと回答している。

【受講科目の感想】

理学部開設授業の中で満足できた授業の数を問う質問には、10-20 と答えた学生が 27%と最も多かったが、この科目数は他のすべてのコースに比べて低い数値である。満

足した理由についての回答では、「専門分野の実力がついた」55%、「親切で丁寧な授業であった」36%、「教材を工夫していた」9%、「授業が一方的でなかった」9%となっており、これらの項目は最も低い数値であった。他方、満足しなかった理由に対する回答では、「教員の熱意が感じられなかった」33%、「内容が古すぎた」11%、「内容は新しいが断片的だった」11%、の各項目は全コースの中で最も高い。第1希望の通りに分属できた学生が少ないと、苦手な分野、あるいは興味を持ちづらい分野の講義の受講を強いられる機会が多くなるためにこのような評価になる可能性もある。しかし、不本意分属学生が多いほど、教員の努力がいつそう求められるので、これらの点について改善していく必要がある。

【標準履修モデル】

「基礎教育科目と専門コア科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていましたが」との問いに対して、36%が「適切」、45%が「おおむね適切」と回答しており、平均的な数値であった。

教育目標と標準履修モデルとの整合性については、18%が「合致」、64%が「おおむね合致」と回答している。

【専門科目への要望】

難易度に関する質問 21 および 22 では、「より高度な授業内容を・・・」が0、「もう少しレベルを下げてほしい」が82%と全コースで最低であった。この数値を見る限り、学生からみた場合、授業レベルは適切に設定されていると考えられる。

実習の時間を増やしてほしいという回答は36%と全コース中最も高く、考慮する必要がある。その一方で、「サークル活動やアルバイトとぶつかるので、実験実習の授業時間を軽減してほしい」かどうか、に対して「全くその通り」との回答が18%と他と比べて高いのは学習意欲の低さを表しており、大学生の履修態度として問題である。

【成績評価】

成績評価が「適切」であったとの回答は最も高く（27%）、「おおむね適切」を併せた数値も72%と平均的であった。

【授業改革】

授業科目数と内容は適切かどうかの問いに対して、「適切」9%、「おおむね適切」64%であったがこれは、最も低い数値である。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導・支援が適切かどうかを問う質問に対して、「適切」36%、「おおむね適切」45%であった。両者の合計81%は他コースと比べて低い数値となっている。

【自由意見】

「各研究室での連絡をもっと密に行ってほしい」との自由意見に対しては、真意ははっきりしないが、研究室内外、あるいは教員相互の連携が十分でないことを指摘している可能性がある。

「引越しの時無駄な時間を過ごしました。」との自由意見は、耐震工事に伴う、やむを得ない状況であったと言えるが、より丁寧な説明が必要であったかもしれない。

「一部教員が、教育や教養としての授業を行えていないと感じた。」との自由意見については、同様の指摘が過去にもあり、真摯に受け止める必要がある。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

まず、アンケートの回収率が半数以下（48%）と低かったことは改善する必要があるが、データ自体の信頼性にも関わるが、以下、このデータに基づいて考えてみる。

質問 9 の回答結果に見られるとおり、地球史環境科学コースが第 1 希望ではなかった学生が際だって多く、このことがアンケートの回答にも表れていると考えられる。授業への満足度が低い（質問 14-17）、授業よりもサークル活動やアルバイトを優先したいと考える、学習意欲の低い学生が多い（質問 24）、授業科目数と内容を適切と考える学生が少ない（質問 29）、などの結果は不本意分属と無関係ではないであろう。不本意分属の学生が多い状況では、学生の現状や希望をくみ取り、それに応える力が教員に求められる。しかし現実には、アドバイザー教員の指導・支援を適切と考える回答がやや少なく（質問 31）、教員の資質についての疑問が自由意見として書かれるなど、そのような期待に応えられる状況になっていない。このことを教員が真摯に受け止め、まず学生の現状や希望を把握し理解する努力が必要である。

一方、これらの課題のすべてがコース所属の教員の責任というわけではない。不本意分属は、大枠で学生を受け入れるという現行の入試システムが根本的にはらむ問題でもある。また、地球史環境科学コースでは、理学部と海洋コア総合研究センターに分かれて卒論指導を受けるために学生同士の交流が減り（質問 2）、教員相互の連絡にも手間がかかり、連携が不十分になりがちになるなどの物理的問題も抱えている。また、災害コースと共通の問題として、高校で地学履修の選択肢が少ないという背景も大きく影響している。

これらは、早急に改善することは困難とみられるが、改善可能なカリキュラム上の課題もある。地球科学分野は、本来フィールドワークを通して理解すべき事柄が多い。フィールドワークは、学生に学習・研究の意欲を湧かせる効果も絶大である。しかし、現在のカリキュラムは、講義と室内での実習を前提としており、フィールドワークは休日に実施せざるを得ない状況に追い込まれている。特別授業期間は、集中講義や学会などで日程が詰まっており、フィールドワークの期間としては不十分である。これまで野外巡検を実施してきた水曜日ですら、介護体験などの実習が加わり、実施困難となっている。このような体制が地球史環境科学コースの教員・学生の生活を圧迫し、余裕をなくさせていることも指摘しておきたい。

防災科学コース

防災科学コース卒業予定者 28 名の全員が回答した。回答率は 100%である。

【全般的な質問】

高知大学における勉学や生活での満足度をみると「友人との出会い」(78%)や「課外活動」(59%)が高く、「授業」(11%)「先生との出会い」(33%)「親からの自立」(33%)は低い。他コースに比べると「授業」に対する満足度の低さが目立ち、併せて「卒研とゼミ」の満足度も昨年度の66%に比べると今年度は44%に低下した。不満度の大きかったものの調査結果にも授業に対する不満(50%)が表れている。ただし授業に対する不満度の高さからみれば他コースとも事情はほぼ同じである。不満を感じたものには「先生とのトラブル」(5%)と「友人とのトラブル」(5%)をあげた学生もいる。昨年度に引き続いて好ましい状況ではない。共通教育の授業に対しては、肯定的評価と否定的評価が半々で、他コースに比べると否定的評価の多さ(50%)がやや目立つ。自由意見としては面白くない授業が多かったとの不満を述べている。教育研究施設(学習環境)に対する感想は満足できたとはほぼ満足できたを含めて75%と多数を占めた。自由意見では引越し作業に関連する不満は意外に少なく、メディアの森の自習室で机の少なさを指摘する意見が寄せられた。就職支援活動では「希望企業へ就職した卒業生(先輩)に関する詳しいデータが非常に役立った」などと好意的な評価が60%で、反対に「自分で集めた情報や知識以上のものは得られなかった」などと否定的な評価も40%をしめた。ボランティア活動には18%の学生が参加して、全員がそれなりの満足感を感じている。

【コース分属】

全員が第1希望のコース分属であり、転学科・転コースの申請をした者もない。

【シラバス】

シラバスが役立ったあるいは役立つこともあったと肯定的に評価するものは96%に上り、授業がほぼシラバスとおりに実施されていることも全員が好意的に認めている。

【受講科目の感想】

理学部で開講実施されている受講科目に対する満足度は全体として良好といえよう。中程度の満足数(20-30科目)と答えたものが36%と最も多く、これよりも幾分満足度の高い授業数(30-40科目)の25%と極めて高い授業数(40以上)の4%を加えると65%に達する。満足できた理由としては「専門分野の実力がついた」と「教員の熱意」や「親切丁寧な授業」があげられている。その一方で満足できなかった授業数としても10科目以下48%と10-20科目の33%に集中しており、他コースにくらべれば専門課程の授業に対する不満度は低い。不満の理由としては「一方的な押し付け授業」と「不親切な分かり難い授業」を指摘しているなかで、「自己責任」と冷静な自己評価を下す意見もみられた。

【標準履修モデル】

標準履修モデルの授業科目については、ほぼ全員に近い学生が肯定的に評価している。基礎教育科目と専門コア科目の配置、専門コア科目と専門専攻科目の配置、コースの教育目標に対しては何れもが96%, 96%, 100%の高い評価と支持である。

【専門科目への要望】

専門科目の高度化に対してこれを指示するもの(57%)がそうでないもの(43%)を上回り、授業内容のレベルを下げる(易しくする)ことについても64%が否定的である。一方、

「最前線の研究成果や手法を学ぶために、実験実習の時間を増やして欲しい」との要望があることに対しては、賛成が 75%を占めた。「サークル活動やアルバイトとぶつかるので、実習実験の授業時間を軽減して欲しい」との要望があることに対しては、当然ながら反対が多数を占めている (75%)。また、「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」の要望に対しても、65%が賛同を示した。この件に関しては自由意見がいくつか寄せられたので列記する。①いろいろな人との交流。②考えることをテーマにした授業がもっと欲しい。③災害時にすぐに対策できるようなこと。④使える技術や知識 (③と④はより実践的な授業内容の要望か)。このほか PC を使いこなす能力を高める具体的な要望も目立った。⑤ PC 技術、プレゼン (分かりやすく伝える) 能力。⑥専門的なプログラミングの使い方。⑦ PC の使い方など。⑧ Excel の技術向上 (もとよりパソコンの技術向上)。

【成績評価】

成績評価の方法を適切あるいは概ね適切と考えた学生は 61%で、適切でない授業もあったと考えた学生は 39%に上り、自分の成績評点結果についても全く同じ評価である。他コースにみられる成績評価に対する不満者は 10-30%程度に留まるので 39%の不満者はやや多いことになる。

【授業改革】

防災科学コースが開設する授業科目数と内容に関しては概ね満足されている (71%)。しかし、「少ない」との物足りなさを訴える学生が他のコースに比べるとやや多い (29%)。具体的な要望としては、文系出身入学者への配慮・対策として基礎が身につく授業の拡大充実や地球物理系分野を専攻した場合の数学・物理学分野授業の増加や気象関連科目の不足も個別自由意見として提起されている。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導支援については 93%の学生が適切あるいは概ね適切であったと評価している。ただし、何か大きな問題でも抱え込まないかぎり 1-2 回生時には互いの交流はほとんどないのが実態であり、この高い数値自体は評価の仕様がないうということでもあろう。この観点からすれば逆に 7% (28 人中の 2 名) がアドバイザー教員の指導に何らかの不適切さを感じたことの方がむしろ重要であろう。

【理学部の教育や高知大学の教育全般】

授業改善への要望事項を中心に少数ながら自由意見が寄せられている。

- ① 数学と英語はもっとできないと困ると思った。物理系には易しめの演習もあればよい。
- ② (地質系には) もっとフィールドワークを増やして欲しい。
- ③ 基礎実験などの教職授業が時間割としてもっと履修しやすく改善して欲しい。
- ④ 大学は自発的に勉強するところである。受身の勉強から脱却するためには 2/3 以上の出席を義務付ける規則は廃止した方がよい。
- ⑤ 学会出席の参加費用として 8 割程度を大学に補助負担して欲しい。

【今後の教育へのフィードバック】

授業については概ね高い評価を受け、その理由としては「専門分野の実力がついた」と

「教員の熱意」や「親切丁寧な授業」があげられた。その一方で「卒研とゼミ」の満足度に減少がみられ、「友人とのトラブル」や「教員とのトラブル」の悩みを抱えている学生がいることも現実である。学生と教員の密な接触機会が多くなる卒業研究などを通じて、個人レベルに応じたきめ細かな指導がこれまでも増して要求されるということになるだろう。

それなりの評価を受けた専門分野授業についても内容改善に向けての要望は一部に依然として強く残っている。「野外・室内の区別を問わず実験と実習の充実」の要望は以前からあり、今年もとくにフィールドワークの強化が要望された。また、学生の専攻分野で人気の高い気象学分野の授業数の増加も強く望まれると同時に、基礎となる数学と物理学の強化も望まれている。このように要望は多岐にわたるが、これらの中で野外実習は防災科学コースの習得すべき科目としてだけでなく、社会に役立つ専門職の実践的な基本技能をしても重要なことから更なる充実に取り組まねばならない。

II. 集計結果

【所属】

1. あなたの所属するコースを下記より選んでください。
- | | | |
|---------------|----------------|--------------|
| A. 数理科学コース | B. 情報科学コース | C. 物質基礎科学コース |
| D. 物質変換科学コース | E. 生体機能物質工学コース | F. 生物科学コース |
| G. 地球史環境科学コース | H. 防災科学コース | |

	A	B	C	D	E	F	G	H	計
卒業者数	52	29	26	31	31	39	23	28	259
回収件数	35	-	22	27	22	29	11	28	174
回収率(%)	67	-	85	87	71	74	48	100	67

【全般的な質問】

2. 高知大学での勉学や生活で満足できたものを下記より選んでください。(複数回答可)
- A. 授業 B. 研究室での卒研やゼミ C. 先生との出会い D. 友人との出会い
- E. 課外活動 F. 親からの自立 G. その他()

(%)

	A	B	C	D	E	F	G
数理科学コース	51	66	51	74	51	51	6
情報科学コース	-	-	-	-	-	-	-
物質基礎科学コース	24	52	48	76	29	29	0
物質変換科学コース	35	62	27	85	31	15	0
生体機能物質工学コース	36	77	50	86	55	45	0
生物科学コース	52	69	62	93	41	41	10
地球史環境科学コース	36	64	36	64	55	45	0
防災科学コース	11	44	33	78	59	33	0

G. その他

生物科学コース

- ・ 保健管理センターでの職員や先生方との出会い。
- ・ アルバイト

3. 高知大学での勉学や生活で満足できなかったものを下記より選んでください。(複数回答可)

- A. 授業 B. 研究室での卒研やゼミ C. 先生とのトラブル D. 友人とのトラブル

E. 課外活動 F. 親からの自立 G. その他 ()

(%)

	A	B	C	D	E	F	G
数理科学コース	43	0	0	14	21	36	14
情報科学コース	-	-	-	-	-	-	-
物質基礎科学コース	44	17	0	0	6	33	11
物質変換科学コース	57	9	13	0	39	13	13
生体機能物質工学コース	57	7	0	7	7	36	0
生物科学コース	22	28	11	0	33	33	22
地球史環境科学コース	56	22	0	0	11	11	11
防災科学コース	50	25	10	10	15	25	5

G. その他

生物科学コース

- ・ 耐震工事のため、最低な条件で研究をしたこと
- ・ わかっていることを前提でどんどん進む授業。
- ・ 卒論をやらなきゃいけないのに、引越し作業が大変だったこと。新しい施設にトイレがないこと。
- ・ 学んだものはあれど、満足感はあまりない。

地球史環境科学コース

- ・ 時間を有意義に使えなかった。

4. 共通教育の授業は満足できるものでしたか。

- A. 満足できた B. 満足できる授業が多かった
C. 満足できる授業が少なかった D. 満足できなかった

(%)

	A	B	C	D
数理科学コース	24	59	18	0
情報科学コース	-	-	-	-
物質基礎科学コース	14	41	36	9
物質変換科学コース	11	30	56	4
生体機能物質工学コース	9	50	36	5
生物科学コース	17	55	28	0
地球史環境科学コース	36	45	18	0
防災科学コース	11	39	50	0

ご意見があればお書きください。

数理科学コース

- ・ 一般教養はあんまり覚えていない。卒業のために単位を取るだけのが多かった。

- ・ 環境問題を扱う授業をもっと受けたかった。
- ・ おもしろそうな授業が時間が被って受けられないことがあったので、もっといろんなところに散らせて欲しい。
- ・ 専門以外の視野を広げることができました。もっと生活に役立つ講義を増やされるとよいと思いました。

物質基礎科学コース

- ・ 共通教育の授業で、病気で休む時は先生に事前に連絡しなければ単位なしになる授業があり、面倒だった。

物質変換科学コース

- ・ 一般教養の授業は全く意味が無いと感じました。
- ・ 正直、授業を通して、何が大事かという、授業の意図が分からない。
- ・ このアンケートの意味が分かりません。今後、どのように活かされるのか、アンケートをとることによって、何がどう改善されるのかも分かりません。
- ・ 授業の先生によって評価が様々であり、不真面目な人でも単位が楽に取れる授業があることが不満でした。
- ・ 共通・専門ともに、カンニング防止があまい。カンニングして自慢に話している人がいる。
- ・ うるさい。

生体機能物質工学コース

- ・ 教職科目があまり実践的でない
- ・ 共通教育の授業は多くの学生が教室に入って講義を受けるという形式なので、専門の授業に比べ、私語が多く真面目に授業を受けている学生にとっては迷惑なので、今までよりも徹底して私語を慎むように指導してほしい。

生物科学コース

- ・ もう少し枠を増やしてほしい。

地球史環境科学コース

- ・ 色々と専門以外の事について知る事が出来ました。

防災科学コース

- ・ 共通教育は面白くない授業が多かったです。しかしその中でも「生態系の人為的インパクト」、防災、スポーツの授業は面白かったです。
- ・ スポーツの科目でサッカーをもっと増やしてほしい。

5. 教育研究施設（学習環境）は満足できるものでしたか。

- A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

(%)

	A	B	C	D
数理科学コース	34	46	20	0

情報科学コース	-	-	-	-
物質基礎科学コース	18	50	27	5
物質変換科学コース	22	37	37	4
生体機能物質工学コース	27	41	23	9
生物科学コース	10	55	31	3
地球史環境科学コース	18	36	36	9
防災科学コース	21	54	25	0

ご意見があればお書きください。

数理科学コース

- ・ 自習学習、集団学習する場所が少なかった。
- ・ 最近増えてきましたが、図書館の本をもっと増やしてもらいたいです。特に新しい専門書を願っています。高知は専門書を置いてある店が少ないので、学生にとって切実な願いです。
- ・ メディ森は試験前になるとうるさくなります。
- ・ クーラーがない部屋は暑すぎる。
- ・ 総合研究棟などは最高の施設で有効活用してもらいました。

物質変換科学コース

- ・ 書籍の量が少ない。24時間開放されていて、空調完備、飲食可能な施設が欲しい。
- ・ 図書館の新しい資料が少なかった。

生体機能物質工学コース

- ・ NMR をもう1個増やしてほしい
- ・ 空調等施設が悪い
- ・ 仕方がない事だが、夏場、冷房が完備されていなかった教室で授業を受けるのは大変だった。また、工事をしている近くの教室で授業を受けた時、集中できなかった。

生物科学コース

- ・ 研究室が明らかに狭い。書物だけで場所がなくなり、研究・作業スペースはまったく確保されていない。学生全員が日中に作業しようとする、10名以上何もすることができない状態になる。
- ・ 自習室が設置されたことは高く評価できる。
- ・ 卒論の大事な時期に引越などで時間をとられたのは痛い。あと理学部棟1号館にトイレがないのもひどい。
- ・ 耐震工事のため、施設にトイレがなく、22時を過ぎるとトイレに困ったことがあります。
- ・ 改修工事における労働過多。現在棟にトイレがなく不便。
- ・ 卒論をやらなきゃいけないのに、引越し作業が大変だったこと。
- ・ 早めに理学部棟1号館にトイレをつけてほしかった。

地球史環境科学コース

- ・ エアコンなどない教室は暑い時は汗が、寒い時は防寒着がじゃまで授業に集中できない。あってもつけてくれない期間が長い
- ・ 他のコースよりも研究環境が悪かった。ネット環境や研究部屋など。

防災科学コース

- ・ メディアの森のテーブルが試験期間中だとすぐに埋まるので、改善してほしい。
- ・ 引っ越しのため実験ができなかった。
- ・ 1～3 回生にも自分のロッカーがあればいいと思う。
- ・ 総合研究棟のトイレの入り口にドアをつけてほしかった。

6. 高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか。

- A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

(%)

	A	B	C	D
数理学コース	14	37	40	9
情報科学コース	-	-	-	-
物質基礎科学コース	18	50	23	9
物質変換科学コース	26	17	35	22
生体機能物質工学コース	26	42	11	21
生物科学コース	13	48	35	4
地球史環境科学コース	13	25	38	25
防災科学コース	12	48	32	8

ご意見があればお書きください。

数理学コース

- ・ 日時などは看板で確認できますが、具体的にどういう対策なのか参加するまで分かりにくいので参加しにくかった。
- ・ あまり使わなかったけど、丁寧で分かりやすく教えてもらった。
- ・ 面接や応募書類についても、丁寧に相談に乗っていただけた、そのような方をもう少し増やして欲していただきたい。

物質変換科学コース

- ・ 就職室の〇〇さんには、とてもお世話になりました。

生体機能物質工学コース

- ・ 就職支援セミナーに参加し、非常にためになるものが多く、やる気を出させてくれた。

生物科学コース

- ・ 高知大で開かれる合同説明会に、高知の企業以外ももっと招いてほしい。
- ・ 言うことなし。満足です。

地球史環境科学コース

- ・ 支援活動自体をあてにせず自力で就職活動をしたため満足度という点では低いです。

防災科学コース

- ・ 自分で集めた情報・知識以上のものを得られなかった。

- ・ 希望先に先に入られてる先輩のデータがあるのが助かりました。

7. 在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか。

A. ある B. ない

(%)

	A. ある	B. ない
数理科学コース	20	80
情報科学コース	-	-
物質基礎科学コース	14	86
物質変換科学コース	11	89
生体機能物質工学コース	18	81
生物科学コース	41	59
地球史環境科学コース	27	73
防災科学コース	18	82

8. 「ある」と答えた方に質問します。その活動は満足いくものでしたか。

A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

(%)

	A	B	C	D
数理科学コース	50	33	17	0
情報科学コース	-	-	-	-
物質基礎科学コース	0	100	0	0
物質変換科学コース	0	67	33	0
生体機能物質工学コース	50	25	25	0
生物科学コース	42	33	8	17
地球史環境科学コース	67	33	0	0
防災科学コース	60	40	0	0

生物科学コース

- ・ 大学公認の清掃活動に参加したが、企画した側の人間は一人も清掃活動をせず、かなり適当なやつつけ仕事であった。
- ・ とても有意義なことなのでもっと告知すべきだと思う。

続いて理学部に関する質問です。

【コース分属】

9. あなたは希望するコースに分属できましたか。

- A. 第1希望コースに分属した B. 第2希望コースに分属した
C. 希望と異なるコースに分属した

(%)

	A	B	C
数理科学コース	100	0	0
情報科学コース	-	-	-
物質基礎科学コース	100	0	0
物質変換科学コース	100	0	0
生体機能物質工学コース	100	0	0
生物科学コース	97	3	0
地球史環境科学コース	55	27	18
防災科学コース	100	0	0

10. あなたは転学部・転学科・転コースの申請をしたことがありますか。

- A. はい B. いいえ

(%)

	A. ある	B. ない
数理科学コース	0	100
情報科学コース	-	-
物質基礎科学コース	5	95
物質変換科学コース	4	96
生体機能物質工学コース	14	86
生物科学コース	7	93
地球史環境科学コース	9	91
防災科学コース	0	100

11. あると答えた方のみに質問します。申請は受け入れられましたか。

- A. はい B. いいえ

(%)

	A. ある	B. ない
数理科学コース	-	-
情報科学コース	-	-
物質基礎科学コース	100	0
物質変換科学コース	100	0
生体機能物質工学コース	100	0

生物科学コース	100	0
地球史環境科学コース	100	0
防災科学コース	-	-

【シラバス】

12. 理学部の授業シラバスについてお聞きします。シラバスは授業選択に役立ちましたか。

- A. 役立った B. 役立つこともあった
C. あまり役立たなかった D. 役立たなかった

(%)

	A	B	C	D
数理科学コース	60	31	9	0
情報科学コース	-	-	-	-
物質基礎科学コース	50	41	9	0
物質変換科学コース	42	50	4	4
生体機能物質工学コース	68	27	0	5
生物科学コース	62	31	0	7
地球史環境科学コース	55	36	0	9
防災科学コース	50	46	0	4

13. 授業はシラバスの授業計画に沿って実施されていましたか。

- A. 実施されていた B. ほぼ実施されていた
C. 余り実施されていなかった D. 実施されていなかった

(%)

	A	B	C	D
数理科学コース	29	63	9	0
情報科学コース	-	-	-	-
物質基礎科学コース	14	73	9	5
物質変換科学コース	15	67	11	7
生体機能物質工学コース	18	82	0	0
生物科学コース	24	72	0	3
地球史環境科学コース	18	73	9	0
防災科学コース	18	82	0	0

【受講科目の感想】

14. あなたが在学期間中に受講した理学部開設授業（講義、実験、演習、セミナー）の印象

をお聞きします。満足できた授業の数はおよそいくつでしたか。

A. 40 以上 B. 30－40 C. 20－30 D. 10－20 E. 10 以下

(%)

	A. 40 以上	B. 30－40	C. 20－30	D. 10－20	E. 10 以下
数理科学コース	17	20	40	17	6
情報科学コース	-	-	-	-	-
物質基礎科学コース	9	18	41	23	9
物質変換科学コース	0	23	27	31	19
生体機能物質工学コース	9	36	18	36	0
生物科学コース	21	31	21	17	10
地球史環境科学コース	0	27	18	36	18
防災科学コース	4	25	36	29	7

15. 満足した理由を下記より選んでください。（複数回答可）

A. 専門分野の実力がついた B. 親切で丁寧な授業であった C. 教材を工夫していた
D. 教員の熱意が感じられた E. 授業が一方的でなかった F. 授業内容が斬新だった
G. その他（具体的に書いてください）

(%)

	A	B	C	D	E	F	G
数理科学コース	64	64	21	30	15	21	3
情報科学コース	-	-	-	-	-	-	-
物質基礎科学コース	59	55	14	45	5	14	0
物質変換科学コース	63	37	15	15	11	7	7
生体機能物質工学コース	91	73	23	50	18	18	0
生物科学コース	74	59	30	26	19	15	0
地球史環境科学コース	55	36	9	36	9	9	9
防災科学コース	57	46	21	39	14	18	0

G. その他

地球史環境科学コース

- ・ 好きな分野にかかわれた

防災科学コース

- ・ 興味ある分野であったため。

16. 理学部開設授業（講義，実験，演習，セミナー）のうち，満足できなかった授業の数はおよそいくつでしたか。

A. 40 以上 B. 30－40 C. 20－30 D. 10－20 E. 10 以下

(%)

	A. 40 以上	B. 30－40	C. 20－30	D. 10－20	E. 10 以下
数理科学コース	3	3	23	14	54
情報科学コース	-	-	-	-	-
物質基礎科学コース	5	5	18	32	41
物質変換科学コース	8	16	12	40	32
生体機能物質工学コース	0	5	14	18	64
生物科学コース	10	0	7	17	66
地球史環境科学コース	9	0	18	36	36
防災科学コース	0	0	19	33	48

17. 満足しなかった理由を下記より選んでください。（複数回答可）

- | | |
|------------------|---------------------|
| A. 実力がつかなかった | B. 不親切でわかり難い授業だった |
| C. 教材の工夫が見られなかった | D. 教員の熱意が感じられなかった |
| E. 一方的な押し付け授業だった | F. 内容が古すぎた |
| G. 内容は新しいが断片的だった | H. その他（具体的に書いてください） |

(%)

	A	B	C	D	E	F	G	H
数理科学コース	53	53	9	0	34	0	3	0
情報科学コース	-	-	-	-	-	-	-	-
物質基礎科学コース	41	73	27	23	27	9	0	5
物質変換科学コース	32	72	40	32	44	8	8	4
生体機能物質工学コース	40	45	25	15	30	5	0	5
生物科学コース	21	54	13	21	29	8	8	8
地球史環境科学コース	44	56	11	33	22	11	11	0
防災科学コース	38	46	12	12	35	4	8	8

H. その他

生体機能物質工学コース

- ・ 研究に役立たなかった

生物科学コース

- ・ 興味がなかった。

防災科学コース

- ・ 教科書の内容そのままであったため。
- ・ 自己責任。

【標準履修モデル】

18. 理学部は授業科目を基礎教育科目（現，基礎科目），専門コア教育科目（現，専門科目のコア科目），専門専攻教育科目（現，専門科目）に大別し，カリキュラムを段階的に学べるように工夫しました。基礎教育科目と専門コア科目は，授業内容や難易度において適切に配置されていたか。

- A. 配置されていた B. 概ね配置されていた
C. 余り配置されていなかった D. 配置されていなかった

(%)

	A	B	C	D
数理科学コース	54	46	0	0
情報科学コース	-	-	-	-
物質基礎科学コース	33	57	5	5
物質変換科学コース	24	55	17	4
生体機能物質工学コース	41	45	9	5
生物科学コース	38	55	3	3
地球史環境科学コース	36	45	9	9
防災科学コース	32	64	0	4

19. 専門コア教育科目と専門専攻教育科目は，授業内容や難易度において適切に配置されていたか。

- A. 配置されていた B. 概ね配置されていた
C. 余り配置されていなかった D. 配置されていなかった

(%)

	A	B	C	D
数理科学コース	34	57	9	0
情報科学コース	-	-	-	-
物質基礎科学コース	23	68	9	0
物質変換科学コース	15	63	15	7
生体機能物質工学コース	23	77	0	0
生物科学コース	24	66	10	0
地球史環境科学コース	27	64	0	9
防災科学コース	25	71	0	4

20. 各教育コースは独自の教育目標を掲げています（履修案内等を参照してください）。この教育目標は標準履修モデルと合致していましたか。

- A. 合致していた B. 概ね合致していた
C. 余り合致していなかった D. 合致していなかった

(%)

	A	B	C	D
数理科学コース	12	85	3	0
情報科学コース	-	-	-	-
物質基礎科学コース	18	68	9	5
物質変換科学コース	15	67	19	0
生体機能物質工学コース	14	77	9	0
生物科学コース	7	72	21	0
地球史環境科学コース	18	64	18	0
防災科学コース	14	86	0	0

【専門科目への要望】

21. 「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. 余りそう思わない D. 全く思わない

(%)

	A	B	C	D
数理科学コース	20	43	37	0
情報科学コース	-	-	-	-
物質基礎科学コース	18	45	27	9
物質変換科学コース	15	52	30	4
生体機能物質工学コース	5	32	59	5
生物科学コース	17	62	21	0
地球史環境科学コース	0	60	30	10
防災科学コース	7	50	39	4

22. 「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. 余りそう思わない D. 全く思わない

(%)

	A	B	C	D
数理科学コース	3	34	40	23
情報科学コース	-	-	-	-
物質基礎科学コース	9	32	45	14

物質変換科学コース	15	26	41	19
生体機能物質工学コース	0	27	59	14
生物科学コース	0	10	62	28
地球史環境科学コース	9	9	82	0
防災科学コース	7	29	46	18

23. 「最前線の研究成果や手法を学ぶために、実験実習の時間を増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. 余りそう思わない D. 全く思わない

(%)

	A	B	C	D
数理科学コース	21	26	26	26
情報科学コース	-	-	-	-
物質基礎科学コース	18	36	45	0
物質変換科学コース	30	26	41	4
生体機能物質工学コース	36	23	36	5
生物科学コース	34	48	17	0
地球史環境科学コース	36	9	36	18
防災科学コース	29	46	21	4

防災科学コース

- ・ 最前線でなくていい。

24. 「サークル活動やアルバイトとぶつかるので、実験実習等の授業時間を軽減してほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. 余りそう思わない D. 全く思わない

(%)

	A	B	C	D
数理科学コース	3	0	35	62
情報科学コース	-	-	-	-
物質基礎科学コース	0	14	59	27
物質変換科学コース	11	4	52	33
生体機能物質工学コース	0	23	45	32
生物科学コース	0	17	52	31
地球史環境科学コース	18	0	45	36

防災科学コース	0	25	36	39
---------	---	----	----	----

25. 「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. 余りそう思わない D. 全く思わない

(%)

	A	B	C	D
数理科学コース	43	34	17	6
情報科学コース	-	-	-	-
物質基礎科学コース	36	32	23	9
物質変換科学コース	33	22	37	7
生体機能物質工学コース	23	41	32	5
生物科学コース	21	31	41	7
地球史環境科学コース	36	18	36	9
防災科学コース	39	25	29	7

26. A あるいは B を選択した人にお聞きます。社会に出て役に立つこととはどのようなことを考えていますか。具体的に書いてください。

数理科学コース

- ・ 活かせること。
- ・ 社会におけるマナーとかの類。
- ・ 大学の早い段階（1 回生や 2 回生）で、就職についての説明があって、今後の就職活動のためにも早く向き合わせて欲しいと思います。そして、就職先が概ね決まってきたら、取りたい授業も出てくると思います。その上で、社会に役立つ授業も作りやすくなると思います。
- ・ 社会で使えるスキル。
- ・ 社会人のマナー、敬語、その他社会に出てからの一般常識、また手帳などでの活用方法などがあればよいと思った。
- ・ 資格を取得するための授業等。
- ・ アクチュアリー（actuary）に関する授業があれば良いのではないかと思います。
- ・ 人前で発表する授業。
- ・ 我々の授業がどのようなことに活用されているのか。
- ・ セールストークや敬語の使い方やお辞儀の仕方。
- ・ 自分で問題を定義し、自分で考え結論を出すこと。
- ・ パソコンを使う授業（レポートをパソコンで作らせるなどでも良い、とにかくパソコンを使うことになれる授業）数学は特にそういった授業が少ないので。
- ・ 先生が学んで実際に社会で活用できた（役立った）ことの話を知りたい。

- ・ 実践でできる知識。
- ・ 面接、マナーなど。
- ・ 実践的な授業。教員志望の学生には教育学部の実践演習などを受講させて欲しかった。数学史についての授業など、数学への興味をさそう授業。
- ・ 数学の理論を学ぶことで、物事の内容を理解することができること。

物質基礎科学コース

- ・ 企業が必要とする知識を知りたい。
- ・ 経営・株・為替
- ・ マナー講座
- ・ パソコンの技術的な授業を増やしたり、研究を行っていく上で必要な基礎の授業を強化など
- ・ プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力・グループワークなどで活用できるようなこと。
- ・ コミュニケーション能力
- ・ 他人の前で自分の考えを述べることや、グループで課題に取り組む機会が少なかった様に思う。これらの必須科目等があるといいと思う。
- ・ 就活に役立つ授業。
- ・ プレゼン能力。

物質変換科学コース

- ・ マナーやルール。
- ・ 世界情勢を知っていることや、他人に対して思いやりのある行動ができること。
- ・ もっとインターシップとかを理学部として紹介して欲しい。
- ・ 資格に結びつくようなことなど。
- ・ 実際の現場での具体的な仕事内容などをする。
- ・ 学んでいることと、それがどのように使われているのかの例。
- ・ 盛り込むことが可能なら、盛り込まないよりは良いのじゃないかと思うた。
- ・ まず、遅刻や、代返を見逃すことが良くないと思う。
- ・ 研究職についている人をもっと呼んで講演等をしてほしかった。
- ・ 専門が役立てる授業。

生体機能物質工学コース

- ・ パソコン技術、敬語やマナーについて
- ・ 会社の経理などのことや学生と社会人で違う税金などの基礎知識
- ・ プレゼンの作成、文書作成など
- ・ Excel の使い方。時事問題。
- ・ 早くからきちんとした実験をやって、4年になったらすぐに実験でき、実力がついている状態が良い
- ・ グループワーク形式の企画作成、社会人として良く生きるための授業など。

生物科学コース

- ・ 生活の役に立つ、周りの人にアドバイスできる。子供に伝えられること。

- ・ パソコン作業をレベル別に教えてほしかった。
- ・ 人間性の向上。私の夢は教師なので、生物科学コースではもっと実習を取り入れてほしかった
- ・ 仕事内容に少しでもつながる事柄。
- ・ 一般常識。
- ・ コミュニケーション能力の向上。
- ・ 理学部は社会情勢に弱すぎる。
- ・ 科学の分野であれば、世の中の最先端の手法や話題などだと思います。

地球史環境科学コース

- ・ 英語力!!
- ・ 役に立つ話を盛り込んでほしいか否かと言われれば「盛り込んでほしい」という立場だということです。授業内容を社会にでて役に立たせられるかどうかは個人の問題なので、どう答えていいかわかりません。
- ・ 同じ分野で働いている人との接し方
- ・ インターンシップ等の課外講義
- ・ 実験の手法と原理。実験から得られる結果の論理的解説。分析機器の使用手法。

防災科学コース

- ・ いろんな人との交流
- ・ 考えることをテーマにした授業がもっとほしい。
- ・ 使える技術・知識。
- ・ PC 技術、プレゼン（分かりやすく伝える）の能力
- ・ 専門的なプログラミングの使い方。
- ・ pc の使い方など。
- ・ Excel の技術向上、もとよりパソコンの技術向上。
- ・ 災害時にすぐに対策できるようなこと。

【成績評価】

27. これまで受講した授業について、成績評価の方法は適切であったと思いますか。

- A. 適切であった B. 概ね適切であった
C. 適切でない授業もあった D. 適切でない授業がたくさんあった

(%)

	A	B	C	D
数理科学コース	24	62	15	0
情報科学コース	-	-	-	-
物質基礎科学コース	14	59	27	0
物質変換科学コース	15	52	30	4
生体機能物質工学コース	18	64	18	0
生物科学コース	21	55	24	0

地球史環境科学コース	27	45	27	0
防災科学コース	18	43	39	0

28. 成績評点は自分の予想と合っていましたか（成績評価が適切に行われたと思いますか）

- A. 適切であった B. 概ね適切であった
C. 適切でない授業もあった D. 適切でない授業がたくさんあった

(%)

	A	B	C	D
数理科学コース	29	56	15	0
情報科学コース	-	-	-	-
物質基礎科学コース	14	68	18	0
物質変換科学コース	11	48	37	4
生体機能物質工学コース	18	59	23	0
生物科学コース	14	76	10	0
地球史環境科学コース	18	82	0	0
防災科学コース	14	46	39	0

【授業改革】

29. 理学部の各学科が開設している授業科目数と内容は適切だと思いますか。

- A. 適切である B. 概ね適切である
C. 足りない D. 多すぎる

(%)

	A	B	C	D
数理科学コース	35	62	3	0
情報科学コース	-	-	-	-
物質基礎科学コース	18	68	9	5
物質変換科学コース	22	67	11	0
生体機能物質工学コース	32	68	0	0
生物科学コース	24	62	10	3
地球史環境科学コース	9	64	27	0
防災科学コース	14	57	29	0

30. CあるいはDを選択した人にお聞きします。どんな授業を増やせば(減らせば)よいと思いますか。具体的に書いてください。

数理科学コース

- ・ しっかりとした演習を増やす。

物質基礎科学コース

- ・ 専門の授業の選択肢、ボリュームをもっと増やしてほしい。
- ・ 卒研に必要な授業を増やしてほしい。
- ・ 全体の数を減らすより、必須を減らしてもっと幅がほしい。

物質変換科学コース

- ・ 高分子に関するものや物理・生物関連のもの（変換コースが取りやすいものにする。時期やレベル等）
- ・ 高分子化学、量子、NMR、IR、X線、表面化学、触媒化学、英語、英会話を増やす。
- ・ 高分子化学の授業。

生物科学コース

- ・ 生活に密着したもの、役立つものを増やしてほしい。
- ・ 植物分類についての授業。特に高等植物に関して。
- ・ 内容が重複している授業が多い。特にオムニバス形式の授業は重複している授業の寄せ集め。

地球史環境科学コース

- ・ もう少し幅広く教えてほしい。他のコースのものでも取りたいと思える様な授業カリキュラムにしてほしい。
- ・ コースによって専門（推奨）とされる授業数がちがう

防災科学コース

- ・ 文系から入ってきた人も少なからずいるので、基礎を身につけられる授業に力をいれてほしい。できればその確認のための授業もほしい。
- ・ 防災科学コースの地球物理系志望者には、数学・物理をもっと学ばせたほうがいいと思う。
- ・ 必修や選択必修の科目が重ならないように配置してもらいたい。どんないい授業であっても重なってしまえば意味がない。
- ・ 2～3回生のとき、履修できる気象分野の科目があまりにも少なく、この大学でよかったのかと後悔した時期がありました。2～3年で学べる気象分野の科目をもっと増やしてほしいです。

【アドバイザー教員制度】

31. アドバイザー教員の指導・支援は適切でしたか。

- A. 適切であった B. 概ね適切であった
C. 余り適切でなかった D. 適切でなかった

(%)

	A	B	C	D
数理科学コース	76	21	0	3
情報科学コース	-	-	-	-
物質基礎科学コース	55	45	0	0
物質変換科学コース	48	22	11	19

生体機能物質工学コース	32	59	9	0
生物科学コース	52	38	10	0
地球史環境科学コース	36	45	9	9
防災科学コース	39	54	7	0

32. 理学部の教育や高知大学の教育全般について、意見があれば書いてください。

数理科学コース

- ・ 4回生のための、学習スペースを各棟に設置してもらえたらありがたい。
- ・ 数学の授業と「演習」の授業のやっている内容が大きく違う授業がいくつかあった。できれば徹底して関連付けて欲しい。
- ・ 理学部の教育について満足しています。授業内容についてやさしい、難しい、分かりやすい、分かりにくい等は学問自体の特徴にもよりますし、また、先生の個性の一つでもあるので、このままで良いのではと思います。授業は選択できるのだし、それが大学だと思います。共通教育のほうは、学生の質が悪いことがたびたびあります。教職科目についても同じです。これは、学生のほうで気を付けるべきことですが、真面目な人が苦勞することも起こっているでしょう。教職科目については特に、講義形式の授業であっても、50人ほどのクラスに分けて、教室についても60人ほどのものを使って授業されたほうが良いと思います。
- ・ 教育学部以外の学部で教員を目指す学生のサポートをもっとして欲しい。模擬授業等。
- ・ 高知大で本当に良かったです。

物質基礎科学コース

- ・ 非常勤などの先生でもいいので、他大学並みに講義を充実してほしかった。
- ・ 学生サービスセンターの対応が少し悪いと感じた。
- ・ 授業時間の変動があり、教職のための講義と必須の講義がかぶってしまい、教職をあきらめたので教職の講義を増やして欲しいと思いました。
- ・ 松村先生には、卒業研究で大変お世話になりました。

物質変換科学コース

- ・ 各コースにより、授業の難しさがあることは分かりますが、コースにより採点の基準が甘いなど、不公平な感じがします。
- ・ 学部間の教育格差が激しすぎる。文系の卒論を見ましたが、もっと改善すべきだと思います。また、教育学部では、教員を目指して入学しているのに教採を受けない人もいると聞きました。他学では全員受けるところもあるので改善すべきである。
- ・ 他学部の卒業論文の形式について、もう少し学生自身が力を入れてやる環境を作るべきだと思う。一年間を通して試行錯誤を行い、体験したデータで書くといった体制にするべきだ。
- ・ 授業によっては、教員が選択できないものがあって、成績に差が生じたりしていたように感じた。選択の授業ではいくつか満足できたものもあったが、必須ではなかったと思う。
- ・ 取りたくない授業をとらなければいけないことがある。先生が選べなかった場合など。授業評価をきちんとしてくれない先生もいる。

- ・ 一回生時の基礎科目が高校の復習となっていて、少し無駄に感じた。実験も基礎実験では、やらされているように感じてしまい楽しくなかった。一年時から、分野を選択できたほうが良いと思った。

生体機能物質工学コース

- ・ 道路などを何回にもわたってなおすお金があるなら、研究費や研究に必要な設備にお金を使ってほしい
- ・ 就職活動をしている時に感じたのだが、学科名・コース名が個性的であったので、採用担当者の方に具体的にどういう事を学んでいるか理解してもらえにくかった。

生物科学コース

- ・ 教員の数が少ないため、教授・准教授への負担が大きすぎる気がする。共通教育の基礎・教養科目の種類が少なすぎる。専門の授業も全体的に浅く広くで数が少ないと感じた。
- ・ わかっていることを前提に授業を進めないでほしい。いろいろなところから生徒は来ているのだから、全員が全員英語が話せるわけでも理解しているわけでもない。数ⅢCを習っているわけでもない。もしかしたら好きでこの学校へ来ているわけではないのかもしれないのだから。
- ・ 4年間どうもありがとうございました。とても充実した4年間でした。
- ・ 私は看護学科から転学部しましたが、単位の認定(読み替え)の時にあやふやな対応をされて、何度も不安を感じました。きちんとシステムが確立されていないのに受け入れを認めてはいけなと思う。単位を1つも落とすことがないのに、卒業論文を書く時期に授業をたくさんとっています。本当に大変です。私の後輩も理学部に転学部したと聞きましたが、改善されているのでしょうか。
- ・ 周りを見ても、カンニングをする者、極端に遅刻の回数の多い者、講義の終わりに近い時間に出席するものが多く見られました。そういった人に対する厳罰化を強めるべきだと思います。
- ・ 高知大学に入学できて本当によかったと思います。授業も卒研も本当に自分が学びたかったこと、やりたかったことができて幸せです。大変だったのは引越しでした。

地球史環境科学コース

- ・ 改修工事の時期を考えてほしかった。各研究室での連絡をもっと密に行ってほしい。引越しの時無駄な時間を過ごしました。
- ・ 一部教員が、教育や教養としての授業を行えていないと感じた。

防災科学コース

- ・ 大学は基本的に自分で勉強するところであるから、授業に2/3以上出席しなければいけないという規則は廃止したほうがよいと思う。こういう規則があるから、いつまでたっても受け身の勉強から脱出できないのではないだろうか。
- ・ 数学と英語はもっとできなきゃ困ると思った。また、物理系の易しめの演習なんかがあるとよいのではないかと思った。
- ・ もっとフィールドワークを増やしてほしい。
- ・ 基礎実験など教職授業をもっと時間的に履修しやすくしてほしい。
- ・ 学会などに行くときは、8割程大学側に負担してほしいです。